

# お金の「知恵」を みにつけよう

Vol.51

新NISAがスタートした2024年は大幅な株価上昇で幕を開けました。早速、口座を開設し投資信託や株を購入した人もいることでしょう。

株価は2月下旬に34年ぶりのバブル期の日経平均株価最高値を超えるところまで一気に上昇しました。

ところが急上昇に喜んだのも束の間でした。4万1千円台に達したところで一息つき、海外の政情不安もあいまって、かつての最高値3万8915円を下回ったところに戻ってしまいました(執筆時点)。

タイミングにもよりますが、新NISAで初めての投資を試みたものの、「勇気を出して購入したら、すぐに値下がりがしちゃった……」という人もいることでしょう。

投資といえば「何度も売ったり、何度も買ったりするもの」というイメージがありますが、あるいは「一定割合マイナスになっていたら、速やかに損失確定をしなければいけない」という損切りルールを掲げる投資指南本もあります。

値上がりは誰でもうれしいものですが、値下がりがりしてしまうと、やはり私たちは戸惑ってしまいます。投資は経済のダイナミックな変動

が価格に直接反映されるため、値上がりと同時に値下がりもありえます。銀行預金では元本割れすることを心配する必要はありませんでしたが、投資をする人は上がる可能性と下がる可能性を理解すること、そして無理のない金額で投資をすることが一番大切です。

## NISAやiDeCoは

### できるだけ売却しないほうがいい

ところで、値下がり時に私たちはどうする

## 投資デビュー、 値下がりがりしても 焦らないこと

べきでしょうか。マイナスでもやはり売却して、別の投資商品に乗り換えるべきでしょうか。

まず、そもそも論として、NISAやiDeCoといった制度は、短期的な売買に向いていません。NISAは売ってしまうと、NISAの非課税口座から出金した扱いになり、年間投資枠は復活しません(総枠の1800万円のほうは翌年復活する)。

iDeCoの場合は売却したとしても定期預金として60歳まで口座に置いておく必要があります。

また、短期的な値下がりでも焦って売却してしまうことは初心者ほど「その後」が難しくなります。

損をしてしまったわけですから、次の投資は怖くて足踏みをしてしまいます。売却したタイミングより値下がりした時点でまた投資をする気にはなれません。そうして様子を見計らっていたところ、投資信託の基準価額は回復し、気がつけば自分が購入した時点の水準まで戻っていた、ということがしばしばあります。これなら、一時的な値下がりに焦らず、持ち続けていればマイナスはゼロになつていた、ということですね。

## できるだけ長く 投資を続けていこう

短期で売買を繰り返すことが投資だというイメージはそれ自体が誤解です。私たち勤労者が投資をするときは、長期投資の考え方を活かしてほしいと思います。

金融庁の試算では5年間積立投資を続けると8割はプラスで終わり、20年続けると100%プラスで終わると出ています。一時的な値動きに踊らされずに長い目で見て、経済の成長に投資をしてみることです。

投資を長い目で見ると、もつひとつ楽になることがあって、それは投資の負担が減ることです。毎日ニュースを見て売買判断をしなければならぬとしたら、仕事に集中する時間も減り、また家庭でリラクセスする時間もなくなってしまいます。

新NISAで投資デビューをした人は、ぜひ少額からの積立投資を続けていきましょう。



◆プロフィール  
山崎 俊輔(やまさき しゅんすけ)

・AFP(2級FP技能士) ・消費生活アドバイザー  
・投資教育家 ・年金教育家

YouTubeチャンネル

「FPヤマサキのシャープなこんにやくチャンネル 山崎俊輔」  
<https://www.youtube.com/@FPyam>